

早稲田社会学会ニュース

第63号

2024年 4月28日発行

早稲田社会学会事務
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第76回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告の募集
4. 『社会学年誌』第66号投稿の募集
5. 2024年度研究助成の募集
6. 第45回早稲田社会学会研究例会のお知らせ
7. 学会ウェブサイト移行のお知らせ
8. 入退会者のお知らせ
9. 学会費納入のお願い
10. 事務局よりお願い

1. 第76回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会は、2024年7月6日（土）に開催されます。開催方法は現在調整中です。戸山キャンパスにて対面での開催を検討していますが、諸状況によりオンライン開催とすることもあります。決まり次第、学会メーリングリストにてお知らせいたします。

今期研究活動委員会では、2024年度～2027年度シンポジウムとして共通テーマ「社会の危機と社会学の危機」を設定しました。今年度は第一弾として「『食』を考える」とします。詳細につきましては、「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、学会ウェブサイト上にてお知らせする予定です。ご参加方法等、詳細につきましては、追ってご連絡いたします。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、「大会一般報告の募集」をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

日時：2024年7月6日（土） 13:30-17:00

会場：調整中（オンライン開催の場合あり）

申込：6月初旬より学会ウェブサイトにて受付開始予定

テーマ：社会の危機と社会学の危機2024：「食」を考える

（以下敬称略）

報告者：安藤丈将（武蔵大学）・柄本三代子（東京国際大学）・福永真弓（東京大学）

コメンテーター：草柳千早（早稲田大学）・平野直子（駒沢女子大学）

司会者：栗原亘（東洋大学）

趣旨説明

本年度の研究例会・大会シンポジウムのテーマは「食」である。「食」は、言うまでもなく、「社会」（それどころかその構成員の生命）が存続可能かどうかというレベルにもかかわる根本的な要素の1つである。もちろん、食べることだけのためにわれわれは生きているわけではない。しかし、食べずに生きることは決してできない。そうしたシンプルな理由ゆえに、「食」というトピックは、われわれにとって、常に無視することのできない、重要なトピックであり続けてきた。

今日、そうした「食」というトピックをめぐる状況は、かつてないほどに複雑な様相を呈するようになってきている。もちろん、「食」は、これまでも「政治」「経済」「文化」「科学」「倫理」、そして「社会」と「自然」といったラベルを貼りつけられてきた領域や世界を軽々と超えるネットワークを背景とする、常に複雑かつ複合的なトピックであり続けてきたといえる。しかし、今日、そうした複雑性・複合性はより一層強化されているように思われる。

このことは、たとえば、「食の安全保障」という話だけに絞ってみても容易に確認できる。多様な「環境汚染」の脅威に関する言説（e.g., マイクロプラスチックによる海産物汚染等）は増加・多様化し続けているし、さらに気候変動や各地での紛争の影響により食の生産や流通が話題となることも多くなっている（そしてこれは、たとえば食料自給率の低さが指摘される日本という国にとっては、より一層重い響きをともなう話題でもある）。

こうした状況を前に、新たなテクノロジーによる積極的な介入の必要性を訴える立場と、その危険性を指摘する立場との論争も活発となっている。遺伝子組み換え技術からゲノム編集技術、あるいはAI・IoTなどまでも含む多様なテクノロジーを積極的に駆使することによって、より安定した——そしてたびたび環境負荷の低いことも強調される——食の供給網を確立できるという主張と、それに対してテクノロジー自体が新たなリスクのもとになるという主張との間の論争などである。そこには、単純にどちらか一方を選ぶのではなく、折衷案を提示する向きももちろんある。しかし、いずれにせよ、どの程度、どのようなテクノロジーを、どこに導入すべきなのか。どこまでが許容でき、何が許されないのか。また、そもそもテクノロジーを導入するということが、どのような条件を必要とするのか、そしてどのような影響がどのようなレベルでもたらされるのか。そうした広範な領域を射程に取めた議論が必要となることはまちがいない。

以上だけでもすでに十分複雑であるが、しかし関連しうる要素はさらに無数に存在する。今日「食」は、このように、ますます多くの領域横断的かつ分野横断的な要素を巻き込んだトピックとなっているといえることができる。そのため、1つ1つの要素に分解して、それぞれを論じるだけでは到底十分な見取図を描くことはできない。むしろ、これらの異種混成的なつながりそのものを捉え

ることが必要であるといえるだろう。そのためには、これまで別々に展開されてきた議論を積極的に「出会わせる」ことで、対応可能なパースペクティブを新たに生み出していく必要がある。

本年度の研究例会・シンポジウムは、まさにそうした「出会いの場」の1つを提供することを企図している。そしてそこにおいては、既存の社会学および周辺分野のこれまでの研究の蓄積を踏まえながらも、さらにそれを現状に十分に対応させるべく組み直すことが目指される。

(文責：東洋大学 栗原亘)

3. 大会一般報告の募集

大会午前中(10:00-12:00予定)の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛にE-mailにてお申し込みください。その際の件名は「大会一般報告申し込み」としてください。

必要事項

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先(郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス)
- (4) 題目(副題を別として25字程度まで)
- (5) 内容概略(200～400字程度)

送付先: socio-office@list.waseda.jp

締切: 2024年5月13日(月)12:00AM

※ 『社会学年誌』投稿とは締切日が異なりますので、ご注意ください。

現在早稲田社会学会会員ではない方で、報告を希望される場合は、上記の必要事項とあわせて入会申込書をご提出ください(なお、本年度についてはPDF等のかたちでE-mailにてご提出ください。当面、推薦人の署名捺印は不要とします)。入会申込の受付および申込書フォーマットの入手につきましては、学会ウェブサイトの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

4. 『社会学年誌』第66号投稿の募集

本年度の『社会学年誌』に投稿を希望される方は、6月30日(日)23:59までに以下の項目を事務局宛にE-mailにてお送りください。メールの件名は「『社会学年誌』投稿申込」としてください。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目(副題を別として25字程度まで)
- (5) 内容概略(200～400字程度)

『社会学年誌』原稿の提出締切は、8月末日です（紙媒体の原稿の郵送は不要となりましたので、上記事務局のE-mailに添付ファイルとしてお送り下さい）。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退される場合は、8月15日までに事務局宛にその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号をご参照ください。現在早稲田社会学会会員でない方で投稿をご希望の方は、上記の申込とあわせて入会申込書をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。事務局までE-mailでお問い合わせください。

編集委員会では、第66号から、掲載された論文を『社会学年誌』の刊行から一定期間を経て「早稲田大学リポジトリ」にてオンライン公開する方向で現在調整を進めています。今日状況において掲載論文のオンライン公開は、掲載論文のプレゼンス向上（特に若手研究者の研究業績の発信）、ひいては『社会学年誌』や早稲田社会学会のプレゼンス向上に寄与するところが大きいと考えての判断です。規約等の詳細については現在検討中ですが、投稿申込みが行われる6月までには学会ホームページに掲載する予定ですので、投稿を考えられている方はご確認いただくようお願いいたします。

5. 2024年度研究助成の募集

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってきました。その結果、2023年度助成後、残額は49,725円となりました。理事会で慎重に審議し、今年度は、この額を上限として募集を行います。決して十分な額とは言えないと思いますが、寄付者のご意思を踏まえ、少しでも会員各位の研究助成に役立てられることを願っています。

- ・助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
- ・助成額：49,725円を上限とする

助成を希望される方は事務局までE-mailでご連絡ください。件名を、「研究助成申請希望」として下さい。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5月13日(月)9:00AM（事務局宛 E-mail のみ有効。郵送不可）です。

なお、募集は、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告(または学会誌投稿)により、その成果を報告していただくようお願いいたします。また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

6. 第45回早稲田社会学会研究例会のお知らせ

日時：2024年5月18日（土） 14:00－17:00

会場：オンライン開催

参加費：無料

申込：2024年5月13日(月)12:00AMまでに、以下のGoogleフォームよりご登録ください。後日参加方法について連絡いたします。

<https://forms.gle/8ybdkGxed799rGHv6>

テーマ：「持続可能な食」に向けた食農倫理学と環境社会学

報告者：

太田和彦（南山大学）「アジア太平洋圏の食農倫理学の動向」

藤原なつみ（九州産業大学）「食にまつわるテクノロジーの社会的受容性：代替肉と培養肉を事例として」

司会：西城戸誠（早稲田大学）

7. 学会ウェブサイト移行のお知らせ

『早稲田社会学会ニュース』第62号でお報せしましたとおり、早稲田大学のWebホスティングサービスの変更に伴い、早稲田社会学会ウェブサイトの新サーバへの移行作業を行いました。2023年11月末に作業を完了しました。移行後のURLは次の通りです。

新サイトURL：<http://assoc-wss.w.waseda.jp/>

8. 入退会者のお知らせ

入退会者はありませんでした。

9. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお振り込みくださいますようお願いいたします。別途、郵便にて「郵便振替払込書」をお送りいたします。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

10. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

コロナ禍以後、事務局運営上の実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に2020年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上